

伝統のあるバスケットボール部

三中35回 松村 篤之介

京三中・山城高校創立百周年記念、真におめでとうございます。私どもの母校が百年を数えたということは、本当に誇りに思います。

その中で私たちのバスケットボール部は、昭和四年の創部から八十年近くを送ってきたことになります。又戦後学制が変わり昭和二十四年山城高校に女子バスケットボール部もできましたが、これすらも既に六十年近くが経ちました。京三中、山城高校と引き継いで歩いて来た歴史と伝統の重みを、改めてこの機会にヒシヒシと感じます。

バスケット部は、今日まで幾多の名プレイヤーを輩出して輝かしい成績を残してきました。平成九（一九七九）年にOB・OG会が結成され、以来その都度総会が開かれて仲間が集まり

懇親やボールを投げて楽しんでいます。会員は七〇〇名近くを数え京三中、山城高校を通して先輩後輩のつながりが出来ています。勿論現役との接点も大切にしています。

こうした伝統を今日まで持ち続けることが出来た理由を二、三述べることにします。

その第一は「立派な体育館」があつたことです。

昭和十二（一九三七）年三月、時の校長、藤森勝郎先生の尽力で、当時の府立中学校としては破格の立派な体育館が竣工しました。時代は資材調達困難な世の中でしたが、私も生徒にとつて大変恵まれたものでした。この体育館は当時関西でバスケットボール公式コートとして認められる唯一のものでした。以後部外からも始終出入りがあり、幾多の全日本的なバスケットの公式試合がこのコートで開催されました。

戦後山城高校になつてからもこの体育館は長くその役割を果たして来ました。然しながら近時老朽化は覆いがたく、遂に平成十六（二〇〇四）年取り壊されて六十七年間の姿を消しました。バスケットボールという球技にとつてなくてはならないコートが、私どもには早くから立派すぎるものがそこにあつたことは、何よりも励みにもなり、幸せであつたと思います。

その第二は「優秀な指導者、先生」を得たことです。

昭和十七（一九四二）年四月（私は京三中の四年生になりました。）、東京高師から小森先生（一九一九—一九九六）が体育教師として赴任して来ました。「俺は神戸出身だから教師になるならば同じ関西へ、そして体育館が一番立派な京三中を自ら希望してやって来た。」と先生は開口一番、私どもバスケット部員を前にして言いました。それから小森先生の東京文理大で培った理論的な、そしてファイト溢れる練習、指導が始まりました。次々と部員生徒をうまいプレイヤーに育てていって、遂に戦後昭和二十三（一九四八）年十月、第一回全国高校選手権で見事全国制覇優勝を果たしました。爾来小森先生は勿論のこと、山城高校バスケットの名は全国に鳴り響くことになりました。次いで小森先生は自分の後輩の優秀な細川磐先生を呼んできました。引き継いだ先生はそれはそれなりに独自のシステムを編み出して生徒を指導し、厳しい練習を重ねてこれまた数度の全国制覇を遂げました。当時地方の学校は山城高校を範とすべく多くの関係者が学びに来ていたと聞いています。

こうした優れた指導者、先生が私どもバスケット部に現れ、選手の育成、強化に汗を流してすばらしい結果を出しました。このことが私どもの重い伝統となり、OB・OGの深い繋がりが

になっています。

第三に「良き先輩」が輩出したことです。

京三中時代より当校は進学校としてよく学びましたが、スポーツにも結構活躍する人材を輩出しました。こうした先輩が地元の京都のみならず、全国に広がり、先輩、後輩の繋がりを持っています。

バスケットボール部にもこうしたことは当て嵌まります。進学や就職をして全日本的なプレイヤーになりそれぞれのチームで大活躍をしたOB・OGが沢山います。そうした中で実社会でもそれなりの立場で立派に仕事をしてこられた先輩を見ると、バスケット部に籍をおいたことに誇りと嬉しさで一杯になります。

バスケットボール部で、中学時代、高校時代に心身共に鍛えられたことに深く感謝しています。一方この機会にOB・OG会の伝統を末長く引き継いでゆく後輩・現役の人たちの今後の頑張りを期待してやみません。

母校の百年記念を心よりお祝い申し上げますと共に、次の二百周年に向かって新しい出発と益々の母校の充実を衷心より念ずるものであります。